

デジタルスタンプラリー

「東京レガシースタジアム2025」が開催された10月17、18、19日の3日間、国立競技場とその周辺でデジタルスタンプラリーが行われました。参加無料で、連日、大勢の家族連れや友だち同士が参加し、街歩きを楽しんでいました。

初日の17日にスタンプラリーに挑戦しました。まず、国立競技場外苑門のEゲートチケット売り場に行き、そこで参加方法やチェックポイントの地図が記されたデジタルスタンプラリーの冊子をもらいました。その場で、参加賞の東京ランニングフェスタ缶バッジをもらいましたが、なんと協力店舗・施設でさまざまな特典がもらえる優れもの。どのお店で缶バッジを使おうか考えながら、いざスタートです。

コースはハーフAスポットとハーフBスポットの2コース。いずれもEゲートチケット売り場を出発点に、東京レガシーハーフマラソンEXPOの「東京2025 デフリンピックブース」「GRAND CYCLE TOKYOブース」までは同じチェックポイントで、その先から2つのコースに分かれ、パワースポットや地元のグルメ店、施設などを回ります。

デジタルスタンプラリーはスマホのアプリ「まちのコイン」を利用します。冊子の説明を見ながら、簡単にダウンロードでき、GPSで現在地を見ながら、チェックポイントを探せる地図も入っています。チェックポイントに着くと、QRコードが記された紙が掲示されていて、それをスマホのアプリで読み込むと、アプリ内にスタンプが押される仕組みです。チェックポイントの回り方は自由。ちなみに、アプリの登録と設定を自分でできるなら、どの地点からでもスタートできます。

ハーフAスポットを歩いてみました。出発地点のチケット売り場で最初のスタンプをアプリで取った後、Aゲート

から国立競技場の中に入り、EXPO会場へ。東京レガシーハーフマラソンオフィシャルパートナーなどの出展ブースが並び、見ているだけで楽しかったです。後半にチェックポイントの2つのブースがあり、スタンプを2つゲットしました。そこからは国立競技場の外へと向かいます。

パワースポットで、将棋のプロ棋士たちが訪れるところで知られる鳩森八幡神社を目指しました。都心にありながら、境内は静かで、外とは違う空気が流れます。せっかくなので、本堂にお参りしすると、勝負ごとに勝てる気分になりました。そこで4つのスタンプを獲得。続いて、チェックポイントの地元の飲食店3店を目指します。1つ目のお店で、店員さんから「次のチェックポイントはここの1階。その次のハンバーガーショップはその道を下っていくと、左側にありますよ」と、親切に教えてもらいました。

ハンバーガーショップからは国立能楽堂へ。アプリの地図を開いて、自分の位置をGPSで確認しながら住宅街の路地を進んでいくと、突然、大きな建物が現れ、無事にたどりつきました。記念に立派な門の写真を撮影して、最後のチェックポイントの定食屋さんに向かいました。そこで最後のスタンプをアプリで押して、出発した国立競技場のEゲートチケット売り場に戻りました。迷わなければ一時間程度で回れるコースでした。

ゴール地点でもあるEゲートのチケット売り場で、担当者にスマホでチェックポイントをすべて回ったかを確認もらい、「コンプリート特典」としてレガスタオリジナル手ぬぐいと「スペシャル特典」としてレガスタクリアファイルをもらいました。お得な気持ちになりました。

東京都中央区から参加した60代の男性は「街歩きイベントは大好き。去年、ここでタウントレックを体験

したのが楽しかったので、今年もデジタルスタンプラリーに参加しました。晴天で、風も涼しく、街歩きには最高の季節。鳩森八幡神社は将棋のマンガによく登場する場所で、一度、来てみかかったので、よかったです」と笑顔で話していました。

また、東京レガシーハーフマラソンのランナー受付に来て、デジタルスタンプラリーを知ったというランナー仲間の女性3人組は「受付の後に行ったEXPOで、スタンプラリーを知りました。Eゲートチケット売り場に戻ってアプリの登録方法を教えてもらい、またEXPOのチェックポイントを行ったので、国立競技場を2周もしました（笑）。これからチェックポイントのお店に行って、缶バッジの特典を使ってお昼を食べようと思っています」と、スタンプラリーの途中で楽しそうに話していました。

ゴール地点でオリジナル手ぬぐいをもらっていた富山県から参加した女性は「私も東京レガシーハーフマラソンの受付に来て、EXPOでスタンプラリーを知りました。その場で自分でアプリを設定して、そこから回り始めました。ゴールしましたが、この後、もう一つのコースを少し回ってから（宿泊先に）帰ろうと思います。残りは、明日、ハーフマラソンの後に回ります」と、スタンプラリーを気に入った様子でした。